



## 日本におけるキリスト教の始まりと、日本人の特性を形作るもの

サレジオ会の関谷神父様は、ごミサで私たちの集まりを始めて下さり、そこでシスター Augustine Matchuendem が誓願を更新致しました。ごミサの後、神父様が子供の頃に歌った歌を神父様自身が歌って下さるのを聞いて楽しみました。そして、プレゼンテー

ションの始まりとなりました。

イエズス会、特にフランシスコ・ザビエルは、1549年に日本へとキリスト教を紹介しました。彼は、その時権力を握っていた戦国大名たちに面会し、30,000人に洗礼を授けました。そして、日本での宣教を「上から下へと」始めました—まず大名たちへの宣教を行ってから、貧富の差なく庶民たちへの宣教を行いました。キリスト教宣教は、1596年から1597年まで禁止されており、長崎では26名が磔により殉教を遂げました。これは、徳川将軍がキリスト教禁止令を出したためです。宣教団は国外へと追放され、1641年にはキリスト教禁止令と共に、日本は鎖国時代へと入って行きました。日本には入り口も出口もありませんでした。日本人が出国することは禁止されており、出国した際には死刑となりました。また、外国人たちが入国することはできませんでした。

## 現在の日本における宗教の現実

注目に値することは、日本人の36%が信仰に基づいた活動に関わっているということです。仏教が31%、キリスト教1%、残りの4%は「宗教と言える何かを信じている」そうです。日本人は信仰を持っています! 宗教を信じていると言った人々の数に変化はありません。信仰は家族の中で受け継がれてゆくものであるからです。多くの日本人が、年に一度神社へと向かいます。日本の多くの祝祭日の中で、一番愛されているのはクリスマスです。



### 日本人を形作るもの

日本人とは礼儀正しく、正直で非常に素直、誠実で礼儀正しく、ルールを尊重する人々です。几帳面で、共同体意識を最優先します。本質的に内気で遠慮深く、日本人は感情をあまり外に出しません。笑顔を見せることもしばしばですが、これは見た目のためです。公共の場では、お互いに調和の内に生きているように見えます。話し合いが早く進むのはそのためです。人の地位が大切に扱われていることも特筆すべきことです。しかし、女性の地位はあまり重要視されていません。彼女たちの主な役割は主婦になることであり、子供が生まれた後に学校や仕事をやめてしまうこともよくあります。日本人は恥の文化を生きる人々であることを強調することは重要であり、これは罪の文化とは異なっています。彼らは自分の弱点や間違いを受け入れません。彼らにとって尊厳を守ることは重要なのです...

米本昭代

Suzy Makougoum Kingue





7月23日(火)

私たちは午後から東京大江戸博物館へ行きました。前日に関谷神父さまからお話を伺うことができたので、私たちは日本の文化を深める機会になりました。日本は250年間の鎖国の歴史をもつ稀な国です。日本人の国民性が内向的であり、罪の概念よりも恥の意識の方がつよいという話を聞いていたので、250年間に日本人がどのように生活していたかについて深める時間となりました。

戦いの多かった戦国時代から、江戸時代になり将軍、徳川家康を筆頭に徳川慶喜まで15代、平和な生活が続いていたことを学芸員さんから教えて頂きました。一方、その間に国内ではキリスト教信仰が固く禁じられていました。特に徳川政権下はキリスト教信徒に激しい弾圧を加え、2万人以上のキリスト者が信仰を守り、殉教の栄冠を受けました。鎖国下において徳川政権はオランダや中国との交易に限られ、後にイギリスとの交易もはじまりますが交易の窓口は長崎の出島に限られました。海外との関係を一部に限ることによって、日本は主にオランダからの医学や天文学、中国から儒学の知識を学びました。平和な治世が続いたこの時代、日本の社会では階級の違いを超えて豊かな子どもも貧しい子どもも読み書き、そろばんを学び、識字率は70パーセントを超えていました。男子も女子も寺小屋という学校で学んでいました。ここにマルグリット・ブールジョワが身分の差を超えて、子どもたちに教育を施し、生きる術を伝える教育を大切にしていた姿との共通点を見ることができました。マルグリットが伝えようとしていた教育との違いは、イエス・キリストのみことばを伝える学校でないということです。日本では儒教や仏教に基づく教育を行い、特に礼節を大切に指導していました。キリスト教禁令下にある日本社会では、信仰を表明することはできなかったので、外見上は仏教徒を装ってキリスト教信仰を継承していたことは特記すべきことです。人々の間では武士道の精神性が発達し、将軍・武士・大衆それぞれの身分に応じた芸術が発達しました。特にこの博物館で、当時、各階級の人々がどのような生活をしていたかということを知りました。さらに神道や仏教の信仰だけを公に認めることによって、日本人としてのアイデンティティを深め、多文化との融合を固く閉ざした傾向は、現在も日本人の特質に影響を与えているということを知りました。これらの学びから私たち一人ひとりはどうのようなメッセージを受け取ったであろうか。相互文化を生きていくうえで、何かヒントとなる照らしを頂くことができたであろうか。

Akiyo Yonemoto

Suzy Makougoum Kingue